

<神戸発⇒舞鶴着 5泊6日>
「サン・プリンセス」 2013 大学生企画
広島・釜山・境港・舞鶴クルーズ体験記
 <クルーズ活性化会議ジョイント企画>

大阪大学国際公共政策研究科・国際公共政策学科のクルーズ体験

シップデータ

サン・プリンセス
 総トン数 77,000トン
 乗客定員 2,022人
 乗組員定員 900人
 全長 261M
 全幅 32M
 巡航速度 24ノット
 就航年 1995年

大阪発		スケジュール	入港	出港
1	7月03日(水)	神戸		停泊
2	7月04日(木)	瀬戸内海クルージング後、広島	20:00	停泊
3	7月05日(金)	広島		16:00
4	7月06日(土)	釜山	8:00	17:00
5	7月07日(日)	境港	7:00	19:00
6	7月08日(月)	舞鶴	7:00	下船



クルーズ体験における感想

乗船時の感想

- 手違いにより乗船に手間取りましたが、船員さんの冗談を交えた明るい対応のおかげで、それも楽しい思い出になりました。
- 船に乗り込むと、内装の吹き抜けがとてもきらびやかで驚いた。写真で見たものよりも豪華に感じた。船内を案内してもらったが、思った以上に広くて船の中じゃないような印象を受けた。
- 乗船時にはターミナルビルと客船が接続されているため、77,000 トンもの大きな船へ乗る実感は得られなかった。乗船後に、船内見学をした際に、船内マップと照らし合わせて、所在、方向感覚がなくなり、客船の大きさを感じた。

船内サービスの感想(食事・レストランサービス)

- アフタヌーンティーでカリフォルニアから来られたという方と同席になりました。クルーズは5回目なのだそうです。気軽に外国の方と仲良くなるという貴重な経験ができました。
- アフタヌーンティーでスコーンに人生初挑戦。びっくりするぐらいおいしかったです。
- アフタヌーンティーでは、これまでに 200 回近くクルーズを体験されている方と同席で、サン・プリンセス号以外の様々な船についてのお話も伺うことができました。その方曰く、サン・プリンセス号のスコーンは世界一なのだそうです！
- アフタヌーンティー！サンドイッチ～焼き菓子～ケーキ～スコーンと次々と出てくる。特に、サンドイッチとスコーンがおすすめ。ゆったりとした優雅な時間を過ごす。
- この日はイタリアンナイトでした。ウェイターさんがみんなボーダーのかわいらしい格好をしていました。スーベニアカップにつられて飲めないお酒を頼んでしまいました。すごくおいしかったです。
- お昼のビュッフェは朝とラインナップが違っていたのでとても楽しめた。
- 朝はレストランで和食をいただく。和食も結構美味しかった。
- 晩御飯は味に満足したことはもちろんだが、ウェイターの皆さんがさりげなく日本語を使ってくれるのは嬉しかった。
- レストランは日本語のメニューがあり、種類も毎日変わりとても豊富で毎日どれを選ぶか迷ってしまった。前菜やデザートはそんなに多くないので、友人とシェアしたり 2つ頼んだりしても良いように思う。しかし、メインの料理はものによっては（特に肉料理）とてもボリュームがあったので注意が必要。
- ディナーのメニューも充実しており、オーダーに迷ったら「シェフのおすすめ」を選択すれば、前菜～メイン～デザートまで。ベジタリアン、ウェルネスメニューも各項目で1, 2つある。デザートにも砂糖不使用のものが用意されている。
- 対応や、食事等のサービスには概ね満足した（できればスープをもう1種類増やして欲しかった）。
- スペシャルレストラン・ステーキハウスでのディナー。チャージは25ドル。ステーキの種類はサーロイン、ヒレ、リブ、ディーボーンと5~6種類から選べる。もちろん、通常のディナー同様複数の選択も可能。その他、前菜、サラダ、スープなどは、通常のディナーよりも凝ったものが多い。スープは、パンをポットにしたものを選択した。これはチョイスミス。味は美味しいが、量が多い。せっかくなので日本酒カクテルを注文。

辛口の日本酒で、お酒に弱い私には飲めなかった。7時からの予約であり、夕日がとてもきれいに見える。また、海との間にデッキがないため、海との距離がとても近く感じ、眺めは壮観である。

- 最終日にバーで一杯。モヒートを注文したが、これは個人的にはハズレであった。ステーキハウス、バーともカクテルはハズレ。カクテルは、日本のカクテルが私には合うようである。最後に、みなさんの感想を分かち合う。
- 最後のディナーでは、ウェイターの方の機転により、オススメデザートを一人3品ずつ味わえるように提供してくれ、充実した締めくくりになった。
- 深夜営業しているホライゾンコートにてウエイトレスの方が、仕事のあとで乗客の悪口を言いながら食事をしているのには驚いた。日本語で日本人に質問されることが多く疲れたのは分かるが、言っている場所をわきまえて欲しい。〈補足：ほんの一部のスタッフだと思いますが、モラルの撤退が大事ですね〉

船内サービスの感想(エンターテイメント)

- 広島でのショーの演目は伝統芸能「神楽（かぐら）」でした。1つの演目をもう少し短くして、解説を入れるなどしないと、外国人には、つらいかなと思いました。日本の伝統文化をどう伝えるかの工夫が必要です。
- 広島伝統芸能：五日市芸能保存会の神楽の舞。説明がないので、内容はわかりにくいですが、舞は素晴らしい。外国人の方にはもっと分かりにくいのではないかと。5階のホールには、(広島の自治体が持ち込んだ?) 解説があったようだ。シアター付近においてあればもっとよかったのに…解説とともに鑑賞できたら、さらに感動しただろう。) 〈補足：船社が、あまり中身を調べずに伝統芸能なら素晴らしいだろうという観念で実施した事例だと思う。〉
- 神楽は最初に簡単な説明(特に英語)のあったほうが理解できたと思う。閉幕後、5階のフロント前に説明文が置いてあったが、せめてシアター入口に置いて欲しかった。
- 映画やショーに関しては、内容は日本文化を知ってもらおうとする方向性を感じたが、もっと外国人向けにしても良いと思う。映画と神楽に関しては上述したが、落語も日本人でも聞き取れる簡単な英語で行って頂ければ外国の方も楽しめたと思う。
- ショーはイギリス音楽の特集でした。迫力のステージに時間がたつのが本当に早く感じました。
- デッキでの映画鑑賞。(プリンセスの特徴の一つ：Movies Under the Stars：デッキでの映画鑑賞)「おとうと」を上映していました。映画のチョイスが微妙だと感じました。国籍・世代を問わず楽しめる映画はもっとあるはずなのに・・・と思いました。
- デッキで映画を観たが、映画の選択が邦画である必要はないと思う。日本人は日本語字幕の洋画に慣れているが、外国人は英語字幕の邦画に慣れていないと思う。日本を題材にした洋画で、日本語字幕を付けたものや海外での認知度の高い邦画(海外の映画祭で賞をとっている等)を放映すれば、日本を海外の人に親しんでもらえるいい機会になると思う。(映画を話題に海外の方と話もしやすい) 〈補足：確かに、乗っている日本人が、本当に、船内で日本映画を見たいのかには疑問ですね。〉
- この日のショーはマジックショーでした。トリックを見破るつもりで見ていたのに全く分かりませんでした。
- ショータイムにて、プロの社交ダンサーによるソーシャルダンスを鑑賞。通常のショーに出ているダンサーはお休みで、観客として見ていたので、「昨日のダンス素晴らしかったです！」と声をかけ、写真も撮っていただきました。

船内サービスの感想（Activity・イベント）

- 屋上の開放感もあってジャグジーもとても楽しかった。
- プールでバルセロナから参加されている男性と話をしました。いろいろな人と気楽にしゃべれる、しかもジャグジーで、これこそがクルーズ。
- アフタヌーンティーのマナー講座があれば、お金を払ってでも参加したかった。

フォーマルナイト

- フォーマルナイトの雰囲気は海外のセレブのパーティーのような雰囲気で、とても楽しかった。
- 今夜はフォーマルナイト！ということで、フォーマルな衣装に身を包み、参加する。暗黙のドレスコードに直面したことはあるものの、ドレスコードが提示されているのは、初体験。クルーズに参加する前には、このドレスコードで少し悩んだ。参加している方は、カクテルドレスの方も入れば、ちょっとしたおしゃれワンピースの方もいらっしまった。私もワンピースで参加。次回は、日本ではほとんど着る機会がないため、カクテルドレスを着てみたい！
- フォーマルナイトはすごく華やかで、別世界のようにでした。自分の振る舞いもいつもよりも少し上品になっていたような気がします
- フォーマルナイトでは、写真を撮ってもらう前にドリンクを頂いたのは良いが、写真を撮る際の置き場に困った。

航路

- 瀬戸内海は陸に近い分、景色に変化があり、秋を感じさせない。しまなみ海峡の橋の下を渡るときの迫力。船のトップと橋が非常に近く見え、船の大きさを改めて感じさせられた。
- 来島海峡大橋の通過が印象的であった。日本人のみならず外国人も空を見上げており、滅多に見られない場所を見られるのも、船旅の良さだと思う。
- 深夜、関門海峡大橋をくぐるため屋上デッキに出て待機。その間、屋上にあるスクリーンで映画が流れていたため、椅子に寝そべり、ドリンクを飲みながら映画鑑賞！ちょっとわくわく体験。
- 関門海峡にて橋の下を通過。これだけでもクルーズに参加してよかったと思えるほどの大迫力でした。夜景がきれいで本当に素敵でした。
- 深夜ごろに下関を通過。関門海峡を通ったときの船はとても迫力があつた。
- 関門海峡大橋をくぐる際には歓声があがり、皆さんと感動を分かち合えました。ただ、周りは日本人ばかり。関門海峡が日本の歴史においても名所であり、また、地形的にも海峡が狭く潮流も速いなど特徴あるところだけに、もっと多くの外国の方にも感動してほしいところです。
- 関門海峡通貨が0時を回ったところだったが、さすがに日本人は関門海峡の歴史を知っているのか、源平の戦いや巖流島の決闘、幕末の外国艦隊の砲撃の舞台となったことを話題に、話が弾んでいた。海外の方の姿をほとんど見なかったが、関門橋も日本を代表する架橋なので、船内で外国人向けにもっと紹介があっても良いと思う。なお、船舶の位置情報をプールサイドや食堂でも確認できるモニターがあれば（部屋のテレビにもではなく）、多くの人が今自分たちがどこにいるのかを確認でき、14階で2時間近く関門橋通過を待たなくてもよかったように思う。＜補足：最近の船では、位置情報が示される船も多いと思います。＞

船内イベント

- 午後はフィットネスセミナーに参加。足型測定をしてもらう。その測定により自らの身体がどのように傾いているかがわかる。しかし、各自の足型に対して、細かい説明はない。「たいていの人はずれているため、身体に影響がでますよ。」という程度。その後、改善のためにはコレがいいと、靴の中敷きを進められる。結構高価であったが、インストラクターの方も使っていてよいとのことで、購入してしまう。終わってみれば、テレビショッピングのような印象を受ける。＜最近では、客船競争もあり、船内でのセミナーにおいて、このような業者タイアップが多いような気がします。深入りは禁物。＞
- クルーズでは娯楽を楽しむことも醍醐味だが、ワインや絵画の勉強の他、一般の乗客にも、クルーズや港湾の勉強をしてもらえたらいいのになあと思える。教養を深めてもらいクルーズの良さを多面的に広めてもらうという意味で、クルーズをもっと知ってもらう機会になると思う。
- クルーの方とご一緒でき、イベントやショーのプログラムについて様々な話を聞く機会があった。このようなクルーと直接話のできる機会は、乗客にお金を払ってもらうか、お得意様限定で行っても十分価値があると思える。
- マジックショーは言葉の壁なく楽しめた。

船内サービスの感想(キャビンサービス、その他)

- 部屋はバルコニー付きということもあり、広く感じた。ベッドや家具もコンパクトで使い勝手がよく、十分な設備だった。タオルや石鹸類も細かく取り替えられており、満足だった。
- 朝はのんびり海を見ながらルームサービスを活用して朝食をいただきました。(バルコニー付きの部屋にしてよかった！)
- 未明に空腹に襲われ、ルームサービスでハンバーガーとフレンチフライをオーダーすると、深夜にもかかわらず、20分程度で運ばれてきました。信じられないくらいおいしかったです。いつでもおいしいものが目の前に！究極の幸せです。しかも無料。 ついつい食べすぎてしまいました。＜補足：ルームサービスは無料です！＞
- 深夜に頼んだルームサービスがとても美味しかった。深夜も乗客の要望に答えるなんてサービスが行き届いていると感じた。

客船全体の感想(その他)

- 出港してからブラブラとデッキを回っていたら、水先案内人をキャッチ。任務が終わると小さい船に飛び乗って港へ戻っていました。原始的な方法がとられていることに驚き。また、日本では水先案内人の高齢化が問題となり、制度改革がされたとか。日頃触れることがない職業に出会えました。

寄港地対応について感想

神戸

- 神戸ターミナル内では、神戸ならではの土産販売員の方の声掛けが少なかったように思う。神戸の土産はある程度品揃えがあったが、近くに行くまで分からなかった。また、神戸以外の地域から来られて、神戸港から乗船する人向けに、次回寄港地としてお客さんに来てもらった時のアピールとして「次に寄港されたときはここに行くのがおすすめ」という情報提供もしていいと思える。

広島

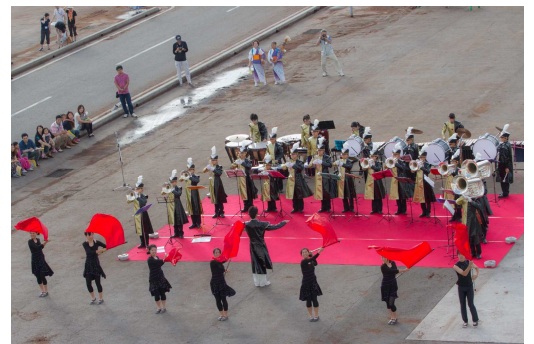
- 広島は元々大きな観光地なので、乗客の対応にも慣れてるように感じた。
- 広島では、厳島神社を観光した。広島港から厳島神社は近くないが、フェリー、市電は整備されていた。厳島神社はそれだけで十分外国人観光客を誘致できるだろうと思った。ただ、帰りの広島港から船へのシャトルバスに英語表記がなかったことが、いささかの混乱を招いていた。

釜山

- 釜山入港。入国審査、出国審査を直接行わなくてよいことにびっくり。どこで出入国審査するのだろうと思いつつ、いつの間にか出国。これが、オフィサーが言っていた出入国審査の簡素化なのだろう。しかし、パスポートにもハンコを押すという形で記録されないのもすこし寂しい。旅の思い出に見返し、思いを巡らせてりも時々するのですよね。でも、行列作ってまでのことではないかもしれません。
- 釜山港を出港の際には、韓国の太鼓、サックス、など踊りと音楽でお見送り。文化が近いせいか、太鼓は鉄板のようです。予定時刻をすぎた出港で、それに合わせて
- 釜山はクルーズ歓迎の準備がとてもよく出来ていて、お土産を売っている屋台も複数の外貨が使えて、とても親切だった。外貨両替の出張銀行まであり、とても便利だった。
- 釜山は大都市ならではの便利さ（港での外貨両替など）が印象的だった。
- 釜山では、ギャング・ウェイの目の前に銀行ATMを積んだトラックが置いてあったのにはびっくりした。
- 釜山で、港でのお土産コーナーに日本人ボランティアの方がおり、買い物をしやすかったように見える。
- 釜山の方々のお見送りの踊りを出港ギリギリまでしてくれたのは嬉しかった。

境港

- 境港では、シャトルバスは、どこで止まるのかをアナウンスしてもらえなかったため、日本人を含め、多くの乗客が戸惑っていたようでした。
- 境港で、見送りのセレモニーを鑑賞。「町をあげて」という雰囲気や、市内観光で感じた「境港らしさ」がすごく伝わる、温かいいい式典でした。しかし、おそらく外国の方にはよくわかっていなかったらしく、隣で見ていた外国人家族に「この見送りの式典に来ている人たちはどんな人なのか。なぜここにこんなにたくさんの方がいるのか。地域の祭りか何かなのか。」と尋ねられました。
- 境港では、寄港地観光の最中、英語が話せない地元の方がすごく混乱しているように感じました。舞鶴市のような、地元への語学研修を行うことも必要ですが、例えば、名物の名称くらいは何らかの形でお客様に知っていただくことができれば理想的だと思いました。
- 境港は全体的に英語対応があまり出来ていないように感じた。日本人観光客にはとても良い観光地であろうと感じたが、外国人観光客が言語の不自由なく満喫するには少し改善の余地がある気がする。地域住民



や観光施設への周知と連携が必要だと感じた。

- 境港は、英語対応等に改善の余地があると感じたが、小さい都市が地域の高校生や住民を巻き込んでクルーズを出迎えているアットホームな雰囲気があった。
- 境港では、お見送りに感激、見えなくなるまで手を振り続けてくれ、そして「See you again」と中学生たちが声をかけてくれる。これは、外国のお客様にも好評であったようである。
- 境港は、港以外の場所では、地元の英語対応の点で、水木しげるロードは外国人観光客が来ることを想定しているとは言いにくい場所だった。一方、港にはお土産ものを売る店が作られていたり、日本文化の体験コーナーがあったりと、早く港に着いても楽しめる配慮がなされていたと思う。
- 境港は入港時、出港時とも、おもてなしの取り組みに感動した。物品の販売は充実しており、鳥取県名産のスイカの振舞い、キッズからシニアまで様々な団体によるショーは、この旅で一番の思い出になった。なお、副市長を始め市民の皆さんが船の見えなくなるまで声を上げて見送ってくれ、境港に再訪したいと思えるものであった。船内の他の乗客も同感だったようである。

舞鶴

- 舞鶴は英語版のパンフレットや案内が行き届いていて、外国人観光客にも楽しめるのではないかと感じた。
- 舞鶴は小さな都市でありながら、外国のクルーズを出迎える準備が十分なされているように感じた。外国人もあふれる都市である京都のバックアップやノウハウがきいているのではないかと思った。

その他

- 外国の人は、観光の中でも寄港地での食事に特にお金を使われているように感じました。食べ物のおいしさや地域特有の料理などをより強調するのもよいのかもしれないと思いました。＜補足：やはり、食べ物は、そこに行っても、体験してみたいNO.1ですね。＞
- クルーズは船内だけでなく、船外、特に寄港地の住民の皆さんの受け入れ態勢が旅の思い出になることが分かった。
- 日本の各寄港地とサン・プリンセスとでそれぞれでアンケートを行い、船内と各寄港地でそれぞれもらえるスタンプやバッジを全て揃えると何か特別な景品がもらえるといった共同イベントもして欲しかった。各寄港地はただの寄港地ではなく、共通の商品を提供しているという意識を持っていただくことで、旅をする側も一つの旅として思い出に残りやすいと思う。

地域活性化のためのクルーズ客船誘致

- 日本人にとってもあまりメジャーな観光地ではない寄港地は特に、外国からのお客様にその良さを短時間で理解していただけるような努力が必要になってくると思います。何がどう有名で、価値があって、特色があるのか、ということをごどれくらいの方が理解して寄港地観光をされていたのだろうか、ということについて疑問に思いました。
- 地域活性化としてのクルーズ誘致は、誘致における準備や地元との連携などが必要であると感じた。小さな都市は特に、クルーズが寄港するだけで大きなイベントにもなると思うので、地域住民への周知やボランティアの呼びかけなど、港や自治体に限らずに地域全体を巻き込んだ誘致が有効なのではないかと感じた。
- 北海道から参加されているお客様との話。何度もクルーズには参加しているようで、境港のお見送りは大

変印象が強いとの感想をお持ちであった。また、ゴルフも趣味のため、今度は寄港先でゴルフを楽しみたいそうだ。ゴルフを楽しまれる層とクルーズを楽しむ層は、重複がありそうである。(何の根拠もないが)

- 寄港地になることによって与えられる経済効果は、正確にはかられたわけではないので断言することはできないが、小さなものではないと思う。しかし、継続されなければその効果は一時的なものに終わってしまう。継続的な効果にするためには、寄港地として魅力ある街をアピールしていかなければならないが、そのためになくしてはならない視点は、「乗客の多くに外国人が含まれる」ということである。
- 瀬戸内海の多島美は日本が世界に誇れるクルーズ航路になれると思う。海と島、そして空からの光の組み合わせで幾通りもの景色を作るこの航路をにほんにも外国の方にももっと知ってほしい。
- 外国へ日本人が旅行する機会が今後も益々増えると考えられる。ただし、それは地方の住民にとっては都心部に住民に比べて少ないと思われる。クルーズ船が寄港すると、大勢の外国人が街にやってくるため、地方の住民、特に子どもやお年寄りも、外国に行かなくても外国人に触れ合う機会を持てる。外国人を身近に感じられる住民が増えれば、外国人相手の商売をはじめめる人材も出てくると考えられる。
- これまでは地域の人達のために商売を行ってきた企業（商店）は、外国人向けの商品開発も行うと思えられる。これらは新たな投資にもつながり、地域の住民にとっても新たな商品を手に入れる機会を増やすことになる。
- 街が少しでも賑やかになると、これまであまり外に出てこなかった高齢の方も、外に出るようになる。健康増進につながるかもしれない。

クルーズ全般への感想

- 船の生活は思ったよりずっと忙しかったです！！やりたいことがたくさんあってのんびりしていたらあっという間に夜になっています。観光から帰って、大慌てでアフタヌーンティー。その後、ジムで走ってプールへ。
- 飲み物は、有料です。水やお茶を持って行ったほうがいいかもしれません。あと、クレジットカードを持っていない人は、ルームキーへのチャージ制になるので、陸地でいくらかドルに両替してくることをお勧めします。＜補足：水やコーヒーは、buffetでは無料です。ただし、部屋の冷蔵庫は有料です。ホテルと同じ。＞
- 船は思ったよりも揺れませんでした。私は普段、乗り物酔いがひどいほうですが、今回は大丈夫でした。日本海は多少揺れますが。
- 日本人が乗船するには、少しお風呂の設備が不便だと感じました。自分が乗船して、ぜひ両親や友人にも勧めたいと思いましたが、シャワーだけで1週間近くを過ごすのは、特に年配の方には少しつらいかもしれません。せめて、日本で一般的なユニットバスの設備がどの部屋にもついていければな、と思います。＜補足：少しグレードアップすれば、バスタブがついています。郎＞
- 日本語でも英語でもコミュニケーションがとれる環境はなかなかないと思います。また、ちょっぴり貴族気分を味わうこともできます！（特にフォーマルナイト）
- 船内で話をした方の多くはすでに何度もクルーズに参加されている方ばかりでした。一度乗るともう一度乗りたくなる、クルーズはそんな魅力を持っていることを今回改めて認識しました。ぜひまたクルーズに参加したいです！
- 下船時、「もっと乗っていたい！」「またぜひクルーズに参加したい！」と強く思いました。本当に下船す

るのが名残惜しかったです。

- クルーズへの乗船は初めてだったので、クルーズ内の全ての経験が新鮮だった。船内の内装、施設、食事、サービスがとても豪華で、船内ではなく大きなホテルにいるような気分だった。
- 瀬戸内海ではほとんど揺れは無かったが、日本海に出ると少し揺れを感じた。私は船酔いをしないタイプなので大丈夫だったが、船に弱い人は酔い止めを常備しておいた方が良いと思う。下船してからの陸酔いの方が強く感じた。
- 今回乗船してみて感じたことは、実際に体験してみないとクルーズの良さは分からない、ということだった。だからこそ、今回実際にクルーズに乗船してみて十分楽しめたし、また家族や友人との旅行でもクルーズに乗ってみたいと思った。
- 客層に関しては、特に日本人はシニア層が多く若い世代にはまだまだ浸透していないと感じた。卒業旅行など、大学生向けの旅行として旅行代理店等でキャンペーンをおこなうと一般にも多少広まるのではないかと思う。敷居の高さと馴染みの薄さをどう解決していくかが課題と感じた。
- 目を覚めると海上。思わずバルコニーに出る。部屋から外の様子を知ることができるのは、バルコニーつきの部屋である。見るだけでなく、風を感じられるのは爽快。
- あっという間の5泊6日。ゆったり読書でもしようと持ち込んだ本は、5ページしか進まなかった。もちろん、読書の時間をとることも可能であるが、初クルーズということで、興味津々あちらこちらを見学・体験しているだけで、時間の経過はあっという間であった。
- クルーズの良さは、人それぞれ時間の過ごし方をデザインできることであろう。また、誰と一緒にによっていろいろな過ごし方ができることにある。今後、どんなクルーズの旅を楽しむことができるか、楽しみがいっぱいである。私のクルーズライフ、スタート！
- 私が船上で見るものは全て、「非日常」でした。それは、普段の学生生活が社会人と比較して質素であることも関係しているかもしれませんが、それだけではないと思います。ホテルのような空間、様々な種類の料理はもちろん、多国籍な乗客、英語で話す乗組員など、日本では体験できない異文化をクルーズ船は持っていました。自分の英語力の拙さに情けなく思うこともありましたが、それもいい経験でした。船内だけではなく、船上に広がる風景も非日常です。
- 最も印象的であったのが、橋の下を船で通過する際の何とも言えない迫力でした。
- クルーズの魅力は船だけではなく、寄港地の特色ある風景を見ることや、土地の食べ物を楽しむこと、そして家族のためのお土産を選ぶことにもありました。
- 一つの寄港地にゆっくりしたい場合には厳しいかもしれませんが、宿泊地と夕食が保障されているというのは、学生からすると大きな安心になります。
- 夜中に移動することが多いため、移動時間を有意義に過ごせることもクルーズのメリットであると考えました。

クルーズ振興の在り方

- 現在では「クルーズ=シニア、お金と暇がある人の高級な遊び」というイメージを払拭しきれていないと思う。では若い世代に訴求力のあるレジャーは何かと考えると、旅行会社が広告を出すような格安ツアーであろうと思う。現在の若者の意識では、クルーズというものがレジャー候補に挙がることもないだろう。そこで、若い世代のクルーズ客を増やすため、まずは、若い世代にクルーズというレジャーの存在を知ってもらうことが大切であり、それと同時に価格を周知することが必要であると思う。今のところ、クル

ーズの情報を広告で見るとしても日本船の価格の高いものが多いような印象である。

- クルーズの存在を知ったところで、次に立ち上がるのが、「船内で何をするのかわからない」ということだろう。これには、船内で行われるショーや施設について周知するしかないかと思う。しかし、これらの情報だけを特集してしまうと、豪華絢爛な印象だけが植えつけられ、「クルーズは高級なもの」という思い込みが大きくなり、若い世代は離れてしまう可能性がある。戦略と、積み重ねが大事。
- 大学生個人での申し込みがまず敷居の高さを感じる。大学生は基本的に、「海外」、「ボランティア」、「教養」、「体験学習」というキーワードにはお金を払う。乗船する時間は十分あるため、お金の面というよりは、売り方を工夫されてはどうかと思う。例えば、大学生協でクルーズを旅行商品として販売すると、学割料金も堂々と提示できると思うし、先のキーワードで特に「教養」や「体験学習」ができる面を強調していただくと、大学側も勧めやすい。ただし、きちんと事前にマナーや船内でのルールを教える時間が必要である。サークル単位での参加だと、騒がしくなると他の乗客の迷惑になるため、ゼミ単位で学生の不始末の責任を取る教員同行での参加が良いと思う。
- 最初は、授業の一環でもいいから、しっかり楽しみ方を教わる（海外では家庭で幼少より教わるものだろうが）ことで大学生のうちからクルーズの楽しみ方（マナーを含）を身につけると、社会人になってもクルーズに参加するようになると思う。また、そのような楽しみ方を知った人が増えれば、日本の休暇の取り方を長期間でしっかり楽しむという方向へ変えられると思う。
- 友人たちにクルーズの話をする、「そんなものがあつたんだね」といわれることが多いです。クルーズの旅は一般的ではないというだけではなく、その存在すら知らない人もまだまだたくさんいることを痛感しました。若者世代に周知するためには、例えば大学構内や大学生協でポスターを貼るなど、大々的な広告を行っていくことも必要だと感じました。

学生モニターで得られた新しい視点（筆者：赤井伸郎の感想）

今回は、プリンセスクルーズ(木島社長)のご協力により、昨年のロイヤルカリビアン社に続き、2回目の学生クルーズ体験の機会を得た。新たに参加した学生は、昨年初めて参加した学生同様、感動の連続だったようだ。

今回のクルーズは、日本発着。日本マーケットを対象に日本発着クルーズを決断したカーニバル社に感謝するとともに、この日本発着クルーズの機会を、国・自治体はしっかりと受け止めてチャンスを活かさなければならぬ。船内では、日本人スタッフや日本語対応、日本食など、意気込みを感じた。ただ、映画の選択や、文化の伝え方など、改善の余地はまだあるように思えた。

今回のコースの目玉は、瀬戸内海。筆者もこのような大きな船で昼間の瀬戸内海を見るのは初めて、特に来島海峡は、大きな船で渡ると、感動が違う。来島海峡にむけてカーブを描いて接近するあの瞬間は、忘れられない。このコースの魅力を、しっかりとアピールすべきであろう。

寄港地として、広島・釜山から、境港・舞鶴へと寄港。境港での歓迎は、うわさには聞いていたが、歓迎イベントもここまで来たのかと、思わせるものであった。舞鶴で下船したが、舞鶴や金沢でも、このレベル同様のイベントがあったようだ。世界のどこに、これほどのイベントをする港があるだろうか。乗船者は、ものすごく感動したに違いない。この感動を、モット多くの人に持ってほしい。学生のレポートによれば、このイベントを、「たまたま地域の祭りの日だったのだろう！」と思っている乗客もいたらしいが、そう思うのも仕方ないだろう。ただ、このようなイベントに毎回出会えるということ、しっかりとわかれば、

これほど素晴らしいクルーズはないと思うし、乗りたいと思う人も増えるだろう。

また、地域活性化の視点では、境港や舞鶴などは、特に、大きな効果があると思われる。経済面だけではなく、外国人客が来ることで、地元住民が一体となり、自分の地域の将来に希望を持てることになる、これこそが、地域活性化ではないだろうか？